

令和5年度 学校評価表(計画・中間・最終)

【5月末・7月末・2月末】

学校名(熊野町立熊野第一小学校)

a 学校教育目標		自ら学び、共に伸びる			b 経営理念 ミッション・ビジョン		ふるさとを愛し、愛される熊一小～ひととの関わりの中で育つ～											
評価計画(5月末提出)					自己評価				学校運営協議会委員による評価			n改善方策						
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	i 達成値	j 評価 A～D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標についての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	7月	2月				
					7月	2月			イ 適正	ロ 不適正	ハ 分からない							
生きる力の育成	主体的に学び、人と関わりながら成長する力を育成する。	自分に合った表現方法で思いや考えを伝える力の育成(自分の考えを表現する力)	○仲間や地域と協働しながら主体的・探究的に学ぶ授業の改善を行う。 ・課題解決に向けて、自ら考え、取り組める探究活動や体験活動の充実。 ・話し合い、調べ、まとめ、表現する活動の場の設定。	教職員、児童への意識調査の肯定的な評価の割合	85%	教員⑤ 96% 児童③ 85%	教員⑤ 97% 児童③ 87%	a	・様々な体験や活動を充実させることで、児童が自ら学ぶ姿勢に繋げることができた。 ・安心してまた、意欲的に表現できるような協働的な学習の場を設定する授業構成を、研究授業等、学校全体で考えていくことができ、表現力の向上に向け取り組むことができた。	5	・授業参観を通じて、児童が大変いきいきと学習していると感じた。 ・「自らする」児童の育成に向けて地道な指導を引き続き期待する。 ・得意なことや自信のあることにはますます励んでいってほしい。苦手なことも先生や仲間と一緒に話し合い、課題解決できたら素晴らしいと思う。 ・先生方が、児童の実態に寄り添って指導しているように感じた。 ・時間を要する児童が学力が低いのではないと思う。じっくり指導して、分かる楽しさを実感させてほしい。 ・挙手の様子を見て、積極的な学習態度を感じた。	コミュニティスクールの取組を更に充実させ、地域と協働しながら探究活動を充実させていく。	7月	2月	新年度体制になった時に、これまでの取組をどう次の学年に引き継ぎ改善していくのか課題である。1年ごとの成果と課題を積み上げ、次年度により効率的に引き継げるようにする工夫が必要である。			
			○個に応じた学びを工夫し基礎・基本の学力の定着を図る。 ・帯タイムやICTを活用し個に応じた学習が進められるような場や学習内容の充実。 ・形成的評価を生かし個々の学習状況を把握した授業づくり。	標準学力調査の校内と全国の平均正答率の比較割合	全国平均比 110%	教員① 96% 児童① 91%	全国学テ 国 107% 算 99%									・少人数指導やがん熊タイム(帯タイム)、くまチャレ(放課後個別学習)、ICTを活用した学習等、個に応じた指導を重視した時間を有効に活用したことで、基礎的な力が付いてきている。 ・学習の積み重ねが難しい児童には、学力の定着が十分とはいえない面が課題である。	1月の標準学力調査に向けて、形成的評価を生かし個々の学習状況を把握した授業づくりを進める。	学力調査に向けて学校として組織的に取り組むことができた。結果を精査し、効果のあった実践を次年度に生かしていく必要がある。
			○多様性を認め合い自己肯定感が高まる学校づくりを進める。 ・児童の相談への丁寧な聞き取りと早期対応。 ・児童一人一人の良さが認め合えるような学級づくりの充実。 ・学年や学校全体で児童への共通理解を図り、組織的に対応する体制づくり。	教職員、児童への意識調査の肯定的な評価の割合	85%	教員⑥ 96% 児童⑥ 91%	教員⑥ 97% 児童⑥ 91%									・アンケート項目「自分や友達のよさを見つけている」で肯定的評価は91%だった。各学級や学校全体で児童を肯定的に評価する雰囲気があった。 ・SOSボタンなどを活用し、児童に寄り添い丁寧な対応をしているが、不登校(傾向)児童が複数名いる。	児童一人一人の良さが認め合えるような学級づくりの充実に向けて、職員研修を行う。	学校・学級経営を通して、児童の人間関係(友達との関係、教師との関係)を構築させ、安心して生活することができるにする。不登校(傾向)児童への対応を組織的におこなう。
く者教り、職員、地域の児童、強い、絆づ	ふるさとを愛し、愛される学校を築く。	コミュニティスクールとしての取組の充実を図る。	○学校を支えてくださる地域・保護者の方々の組織「コミュニティスクールサポーター」を活用した教育活動を充実させる。 ・地域の「もの・ひと・こと」を生かした学習活動の新たな設定。	保護者、児童への意識調査の肯定的な評価の割合	85%	保護③ 88% 児童⑦ 91%	保護③ 88% 児童⑦ 89%	b	5	・PTAが協力的とのこと。コミュニティスクールが充実すると思う。 ・学校の考え方や要望を絞って地域に提案した方がよいと思う。地域も充実する。 ・1年生の昔遊びをサポートした。児童のいきいきした姿が見れて参加してよかったと思った。いただいたお礼の手紙は宝物になっている。もっと回数を増やして充実させていきたい。	学校を支えてくださる地域・保護者の方々の組織「コミュニティスクールサポーター」を活用した教育活動を充実させる。	研究部内のCS担当者を中心に「コミュニティスクールサポーター」を活用したカリキュラムマネジメントを更に進めている。						

j評価 A～D 4段階評価

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60